

伊方発電所3号機 使用済燃料乾式貯蔵施設的设计及び工事計画画認可申請に係る審査でのコメント等管理表

No	月日	分類	資料等	コメント内容	指摘者	回答月日	四国電力の回答	資料	回答方法	ステータス
火災-1	2021/1/27	火災	資料5	乾式キャスクの安全機構を環境温度が50℃以下において確認しているのとおお、は、消防法に基づき対応において乾式キャスクの閉じ込め機能に影響を与えないことを説明すること。		2021/2/10	乾式キャスクを貯蔵する貯蔵エリアは、火災源を極力排除し、火災は起こり得ないと考えており、貯蔵エリアへの運搬時においても、常時作業員がおり、万一の火災発生時には早期の消火が可能な状況です。 今回仮定として、貯蔵エリアへの乾式キャスク運搬時に搬送台車や火災が発生することを想定し、乾式キャスクへの影響を、核燃料輸送物設計承認で確認した燃焼試験の許容結果を用い確認しました。 仮定した火災における火災燃焼時間14秒から、核燃料輸送物設計承認で確認した燃焼試験の許容結果を用い、乾式キャスクの閉じ込め機能に必要な部位の温度上昇値を保守的に想定した結果、長期健全性を維持できる制限温度を下回ることを確認しました。 以上より、貯蔵エリアにおける火災を仮定し、乾式キャスクが直接火災にさらされるという短期的に環境温度50℃を満足しない状況も想定しても、閉じ込め機能に必要な部位は長期健全性を維持できる制限温度以下となり、乾式キャスクの閉じ込め機能を維持することができます。	補足説明資料DSF-030	ヒアリング	
火災-2	2021/1/27	火災	資料5	放射線による影響や火災性状等を考慮した火災感知器の選定方針について説明すること。		2021/2/10	火災感知器は、使用済燃料乾式貯蔵建屋の環境条件を考慮の上、消防法に基づき選定しております。放射線の影響については、乾式建屋で想定される放射線量よりも線量の高い場所を設置している医師の同種感知器に放射線による差障影響がないことから、放射線による影響はありません。また、設置高さ、設置面積をエリア毎で整理し、感知器の選定及び設置量が消防法を満足している設計としています。	補足説明資料DSF-030	ヒアリング	
火災-3	2021/1/27	火災	資料5	消火系統、消防車等の仕様について、具体的に説明すること。		2021/2/10	消火用水供給系統は平ばえ消火タンク及び貯水貯槽を各1基設置し、静水頭により消火水を供給する設計としており、使用済乾式貯蔵建屋内に設置する屋内消火栓から放水できる設計としています。 移動式消防自動車は消火ホース等の資機材を備え付けている化学消防自動車(1台)及び水槽付消防自動車(1台)を配備しており、これらの消防自動車は4000kg分の泡放射を同時に2口行うこと可能な能力を有しています。	補足説明資料DSF-030	ヒアリング	